

■最終提言が目指す地域コミュニティの将来像について

1. これまでに出示された意見（中間とりまとめなどより）

- ・地域と行政の役割分担を決めておく必要がある。
- ・自分の住んでいる地域のことを住民が誇りに思う。
- ・今やっている活動を「楽しく」という発想で考えていくことが大事。
- ・どうすれば魅力ある楽しい活動になるかという、やはり企画に参加すること。
- ・地域のやらされ感につながらないように、幅広い住民が参加できる仕組みが必要。
- ・「来たいときだけでもいい」という「ゆるい」雰囲気づくりも必要。
- ・入ってこられる門戸を常に開いておく。来たい人はどうぞ自由に。
- ・今やっていることを楽しくする発想がいるし、昔のように一度入ったら逃がさないという雰囲気ではいけない。気軽に参加していただくことが重要。
- ・地域はボランティアではないのかもしれない。奉仕でやっている人たちが多すぎる。
- ・地域性の範囲で、ある程度、差が出ても仕方がないという視点もいるのかもしれない。
- ・置かれた地理的条件などが全く違うということからも、地域の方々の意向を十分に聞きながら、それぞれ地域にあった目標をきちんと立てるべき。
- ・まちづくりに対しては、小学校、中学校が積極的にやってくれると結構盛り上がる。

2. めざすコミュニティの姿（案）

（1）10年後のめざす地域のすがた

【住民主体のまちづくり（魅力）】

- ・地域コミュニティが、それぞれの特性や魅力（人的・物的・地理的などの資源）や課題を把握したうえで将来像を共有し、目標や計画を立て、新しい試みや問題解決に向けた取り組みを行うなど、地域の実情に応じたまちづくりを進めている。
- ・地域コミュニティだけで解決できない問題について、企業やNPO、学校、行政などが、それぞれの知恵やノウハウを持ち寄る環境が整備され、補完、連携し合いながら活動をしている。

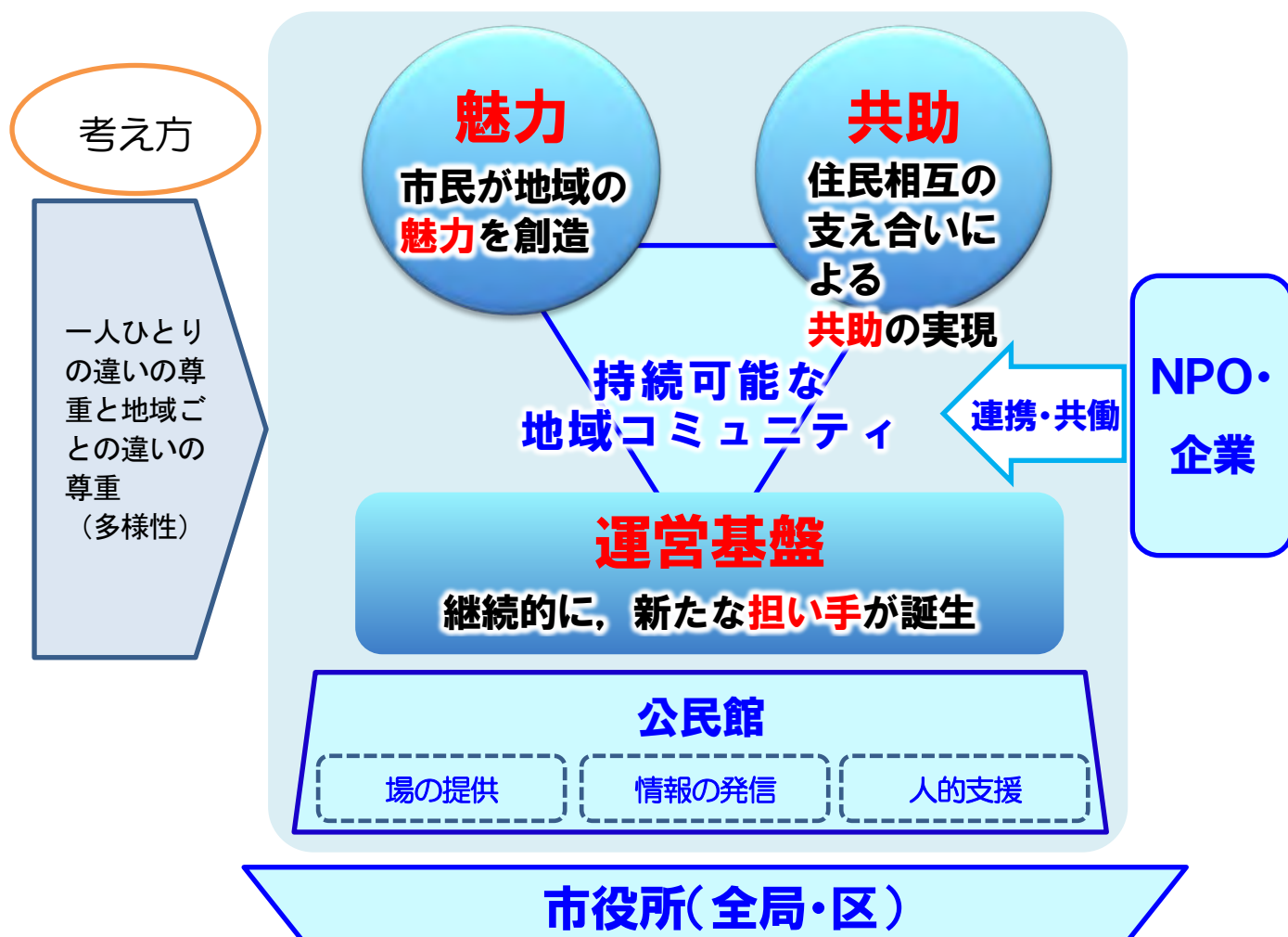
【強い絆の地域づくり（共助）】

- ・地域住民が気軽に集う場所があり、自然と顔の見える関係が育まれ、住民が共に支え合いながら、元気に、安心して暮らす「まち」ができています。
- ・校区にある各種団体（自治会・町内会や子ども会、老人クラブ、PTAなど）や任意団体（NPOや公民館サークルなど）、民間（企業や商店、コミュニティカフェなど）が、地域コミュニティの中での互いの立ち位置を認め、尊重しながら、「ゆるやかな」関係の下、見守りや支え合いなどの「共助」が育まれ、地域の「絆」が深まっている。

【人材の育成・発掘（運営基盤）】

- ・住民一人ひとりの立場や状況の違いを認めあい、自主的で無理のない範囲で活動に参加できる仕組みが構築され、新たな担い手が生まれ、持続可能なコミュニティ社会が確立されている。
- ・住民が、地域づくりに「義務的」ではなく「楽しく」「笑顔」で活動し、「新しい企画や活動にチャレンジしたい」と思うような元気なまちとなっている。
- ・次の世代の住民が、地域活動へ参画しやすいまちとなっている。

(2) めざす姿の全体イメージ



(3) 将来像を表すキーワード

